

おてら

# 春彼岸法要会

先祖への供養は

私への供養

三月十七日～二十三日

三月二十日(水・祝)

午前十一時より

彼岸中日法要

護持会総会

おとぎの代わりに軽食をご用意します

ご本尊様にお参りしてから

お墓参りをしましょう

常例十六日講  
毎月十六日午後一時より  
お経練習・法話会

写経会

毎月第二・四金曜日  
午後一時より

## 令和6年能登半島地震

令和6年能登半島地震により被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。また、県外のお檀家の方々よりお見舞いのお電話やメールを多数いただきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

浄光寺では、本堂内陣の金箔、堂内漆喰壁や外壁、墓場ブロック塀等々の剥落や亀裂が散見されました。ただ、今のところ急を要するものでもないので、次回の外壁工事の際に修繕したいと考えております。皆様がご心配されていた墓碑の倒壊はございませんでしたが、個々のお墓を具に見てはおりませんので、春彼岸にお参りの際に各自のお墓をご確認ください。

新潟市では特に西区で液状化による被害が大きく、まだ日々調査が行われている状況です。報道で被害が出ている町名にお住まいのお檀家の方々には、個別にお電話で被害状況の確認をさせていただきますましたが、こちらの確認漏れや後で被害が確認された場合もありますので、被災された方は当寺にご報告ください。新潟教区からも随時被害状況を報告するよう要請が来ておりますので、微力ながら、被害状況に応じて本山や当寺からも何らかのご支援をさせていただけるかと存じます。

本山では現地の情報を元に1月4日から復旧支援隊を被災地に派遣し始め、現地教務所職員と連携し、被災寺院を見舞いながら必要な支援を聞き取り、食料や水、カイロ、生理用品、おむつ、カセットコンロ、発電機等を届ける活動を続けています。7日には、本山と石川教区教務所に各緊急災害対策本部を設けて継続的な支援活動に入り、8日には金沢別院に支援センターが設置されました。センターでは、被災寺院や門信徒からの支援要請を受け付け、ボランティア希望者に情報提供や宿泊場所の提供等を行い、継続的な被災地支援を進めていきます。必要とされる最新の支援助物資等の情報は、金沢別院ホームページ、X(旧ツイッター)、インスタグラムから見るができます。尚、5日からは、たすけあい運動募金による「令和6年能登半島地震災害義援金」の募集を開始しましたので、詳しくは裏面をご覧ください。

# 御正忌報恩講

本山本願寺で1月9日  
から行われていた、  
宗祖親鸞聖人のご遺徳

を偲ぶ御正忌報恩講法要が16日に円成を迎え、期間中の15日に大谷光淳門主によるご親教(法話)がありました。  
ご門主は能登半島地震の犠牲者へ哀悼の意を表し、被災者へお見舞いの言葉を述べられました。御正忌報恩講は親鸞聖人のみ教えを味わう尊い機会であり、また今年が立教開宗800年に当たることを挙げ、「浄土真宗のみ教えは時代や場所を問わない普遍性を持った教えである」と伝えられました。



## 浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金 「令和6年能登半島地震 災害義援金」

### 郵便振替

記号番号 01000-4-69957

加入者名 たすけあい募金

### 銀行振込

銀行 ゆうちよ銀行

店名 一〇九(イチゼロキュウ)店

番号 当座 0069957

名義 たすけあい募金

\* 通信欄に「能登地震」とご記入ください。住所、連絡先、領収書名のご記入をお願いします。

\* インターネットバンキングで振込の方は、入金者名義、住所、連絡先、領収書名等について下記メールアドレスにご連絡をお願いします。

saigai-taisaku@hongwanji.or.jp

## 思うままにはならない 位職 蒲原 靈英

よりによって元日にこのような大地震が起きるとは。やはり私達は人知を超えた大きな力の中で生かされているのだと思われた方、将又、初詣をした直後にこんな惨事が起きるなんて神も仏もあるものかと思われた方。浄土真宗のみ教えから見させていたたくとどちらもその通りです。つまり、所詮私達は阿弥陀様のおはからいの中に生かされているのであり、神仏に祈ったり願ったりしてみたとところで災害が無くなるわけでもないのです。

お釈迦様は、「あらゆることは皆自分の思うままにはならない(一切皆苦)」との真理を説かれました。ところが、私達は「あらゆることが皆自分の思うままになる」と思っているから、自分の思い通りにならないことが起こると、「どうして」と悩み苦しむのです。もちろん、自分に降りかかって来る災難やそこから生じる不安や苦悩を取り払えるように、今自分にできることは最大限努力する必要があります。例えば、病気になるれば病院へ行くとか、解決や救済方法を具体的に提示してもらえたり人々や機関に相談するとか。でも、病院へ行っても治らないことも多いし、今回のような地震や事故、或いは先日裁判員裁判で死刑判決が下された京アニ事件のような事件で、ある日突然住む所だけでなく大切な人の命を奪われることもあり、兎角自分の努力ではどうしてみようもないことの方が多いのが娑婆です。そんな時、大変難しいことではありますが、所詮「あらゆることは皆自分の思うままにはならない」のだということ、受け容れることから始めなくてはなりません。

受け容れたくないけれど、まずは受け容れる。そして、これも阿弥陀様のおはからいなのだといただく。阿弥陀様というのはそんなに残酷で無慈悲なのかと思われるかもしれません。しかし、自分に都合の良い自分勝手なばかりから見るからそう見えるのです。起こったことをそのままにただけば、その中から自分の非力さや愚かさ、また、それでもこうして今生かされているという命の不思議さや尊さに気付かせていただける。苦しいは苦ししい悲しいは悲しいけれども、唯々それだけでは終わらず、「私とは何なのか。私は何の為に生かされているのか」と、阿弥陀様のおはからいの中に見つめさせていただくことができる。そういう眼を持たせていただける。ありがたいことよ南無阿弥陀仏。これが浄土真宗のみ教えなのです。合掌